

【本文・読み方】 【現代語訳】

しゃかによらりりやうがせん  
釈迦如来、楞伽山にして、  
釈迦如来は楞伽山で説法さ  
れた時、

いしゅうごうみよなんてんじく  
為衆告命南天竺  
衆のために号命したまわく  
りゅうじゅだいししゅごせ  
龍樹大士出於世  
『南インドに龍樹という大  
いなる人が現れて、

しつうざいはうむけん  
悉能摧破有無見  
ことごとく、とく有無の見を  
摧破せん。  
真理をおおい隠す有無の思  
想をことごとく打ちくだく。

せんぜだいじょうむじょうほう  
宣説大乘無上法  
大乘無上の法を宣説し、  
彼は 自分だけの救いでは  
なく、いのちもろともを  
のせてはこぶ 大きな乗り  
もののような すばらしい  
救いの法を説き、

しょうかんぎじしやうあんらく  
証歎喜地生安楽  
歎喜地を証して、安楽に  
生ぜん、と。  
みずからも身と心によるこ  
びを証していのち安らぐ  
さとのりに生まれるであ  
らう』と言われました。

【解説】

二十五年ほど前に、龍樹菩薩が瞑想したとい  
われる地、ナーガールジュナを訪れました。

ハイデラバードの南東約一七〇キロにある重  
要な遺構は、ダム工事により人造湖に浮かぶ  
島に移されています。仏教・ヒンドゥー教の  
遺跡群に加え仏教美術を収めた博物館があり  
ます。龍樹菩薩存命の頃は、法輪や仏足石が  
仏教の象徴でした。それが徐々に仏像へと移  
行していく時代で、その意味でも貴重な遺構  
といえます。紀元前に遠くインドで生まれた  
仏教が、地域や時代を超えて私たちに届いて  
いることに感動をおぼえます。



龍樹菩薩が瞑想されたナガール  
ジュナコンダ遺跡 (南インド)



法輪



石足

お釈迦さまの不思議な予告

「正信偈」には、七高僧の第一番目に龍樹  
菩薩の名を挙げそのお徳を讃えられます。釈  
迦如来が、南インドの楞伽山で説法された  
き、「私が亡き後、龍樹という菩薩が南インド  
に生まれ、すべての人びとを救うために阿弥  
陀如来の教えを説く。そして、菩薩も自ら

歎喜地と呼ばれる(仏になるに定まった)位  
になり、お浄土に生まれるであろう」と予告  
されたのです。龍樹菩薩は、お釈迦さまがこ  
入滅されておよそ七百年後の三世紀はじめ  
に活躍されたお方です。

親鸞聖人は「正信偈」で、お釈迦さまが龍  
樹菩薩の出世を予告されたことに大事な意味  
があるとされます。お釈迦さまから龍樹菩薩  
と引きつがれ、聖人ご自身に届いたことは偶  
然ではなく、必然のことであったと宣言され  
たのです。

自分に執着するものを救う

龍樹菩薩の教えは、「空」の思想といわれる  
仏教の根本思想です。私たち人間は、自分の  
立場や損得に執着します。はじめは大切な  
人と思つて寄り添いまして、条件が変われ  
ばついにはその人を捨てても自分自身を守  
ろうとするのです。そういう生き方をせざる  
を得ない私たちを悲しみ、救おうとされるの  
が阿弥陀如来の慈悲であります。仏の大慈悲  
心がこの私にかけられているのだとうなずけ  
るとき、執着の煩悩に苦しむ生き方から解放  
されていくことになるのでしよう。(k)